

30周年記念イベント テクニカルツアー 支笏湖・サケを学ぶ旅

1. はじめに

青年技術士交流委員会は、平成元年の立ち上げから30年を迎え、これを記念して北海道の本部役員の皆様や歴代の諸先輩方、全国の青年メンバーとの「交流会」として、令和元年9月8日(日)～9月9日(月)にかけて30周年記念イベントを開催しました。

イベント2日目の9月9日(月)には「支笏湖・サケを学ぶ旅」というテーマのもと、テクニカルツアーを実施しましたので、その内容をご報告致します。

2. テクニカルツアーの行程

日時：令和元年9月9日(月)8:30～16:00

参加数：42名

内容：8:30	札幌駅北口 出発
・8:30～10:00	沿線ガイド
・10:00～11:00	支笏湖 見学
・11:30～12:30	さけます情報館 見学
・13:00～14:15	昼食(サーモンパーク千歳)
・14:30	新千歳空港 到着
・16:00	札幌駅北口 解散

3. ツアー内容

(1) 札幌駅北口～沿線ガイド

札幌駅北口を出発したバスの中では、道中も余すことなく楽しんでもらおう！ということで、ツアーの行程や注意事項の説明から始まり、目的地である支笏湖の特徴や成り立ちのほか、支笏湖畔に架かる道内最古の鉄橋(歩道橋)である山線鉄橋など、話手を変えながら北海道幹事による「沿線ガイド」が行われました。

さらに、地域住民と企業や行政が一体となって地域・景観・観光空間づくりを目指す取り組みである

シーニックバイウェイや自転車道の整備、平成26年支笏豪雨災害の状況、雪崩予防柵やスノーシェッドなど、バスが走る一般国道453号における取組みについて関わりのある技術士たちからの話題提供が続きました。

「沿線ガイド」に耳を傾けているうちに窓の外には陽の光を浴びて煌めくブルーの水面が姿を現し、札幌を出発して約1時間半で最初の見学場所である支笏湖に到着しました。

(2) 支笏湖

到着後は、支笏湖に関する様々な情報が展示されているビジターセンターを訪れる、公園内を散策する、山線鉄橋や支笏湖の景観を眺めるなど、各々が自由に見学しました。

その後、全員で水中観光船に乗り、約30分間にわたり支笏湖クルーズを堪能しました。水中観光船では湖の上から景色を楽しむことはもちろん、湖の中の景色も楽しむこともできます。

出発してすぐに湖中で目にしたのは、たくさんのウグイたち。この日は前月の天候の影響により透明度が少し低下しているとのことでしたが、水質日本一を十分に感じる事ができました。



写真-1 水中観光船から湖底を望む

さらに、少し進むと「柱状節理」と呼ばれる切り立った崖のような光景が湖底に現れます。遙か昔の火山活動によって創り出された神秘的な景色に思わず目を奪われました。

湖の上では吹き抜ける風が心地よく、また、湖の青と山々の緑のコントラストが美しく、ゆったりとした時間を過ごすことができました。

この日は、北海道の9月としては珍しく気温が高かったため、「暑いな〜!」と汗をぬぐいながら一同バスに乗り込み、次の見学場所へと向け支笏湖を出発しました。

(3) さけます情報館

2か所目の見学場所である「さけます情報館」は、国立研究開発法人水産研究・教育機構北海道区水産研究所の広報展示施設です。展示パネルや模型などでふ化放流の歴史や仕組みを学ぶエリアと、ミニ飼育池で稚魚に触れたり、エサやり体験ができるエリアの2つに分かれています。(季節によって体験内容は変わります)

まず、職員の方からさけます類の生態やふ化放流の歴史や仕組みについて説明していただきました。中でも、「耳石温度標識」という魚類が持つ耳石にバーコード状のパターンを記録することで、放流魚を区別するという方法は個人的にとっても興味深い内容でした。

次に、2班に分かれて館内の見学・体験を行いました。とりわけ好評だったのが稚魚の放流体験です。バケツの中の稚魚をプラスチックカップに取り、千歳川へ続く放流路へと流します。



写真-2 稚魚の放流体験

自分の放った稚魚が千歳川へと旅立つ様子を眺めていると、嬉しいような寂しいような気持ちになりました。いつか大きくなって千歳川へ戻ってきますようにと、願いを込めて見送りました。

(4) サーモンパーク千歳～インディアン水車

以上2か所の見学を終え、道の駅サーモンパーク千歳にて昼食を取り、食後は少し歩いてインディアン水車の見学に向かいました。

ふ化事業に用いるサケの親魚を捕獲するため、秋だけ設置されるインディアン水車はまさに千歳川の秋の風物詩です。

この日は運良く、サケの捕獲作業状況を千歳川に架かる橋の上から見ることができました。

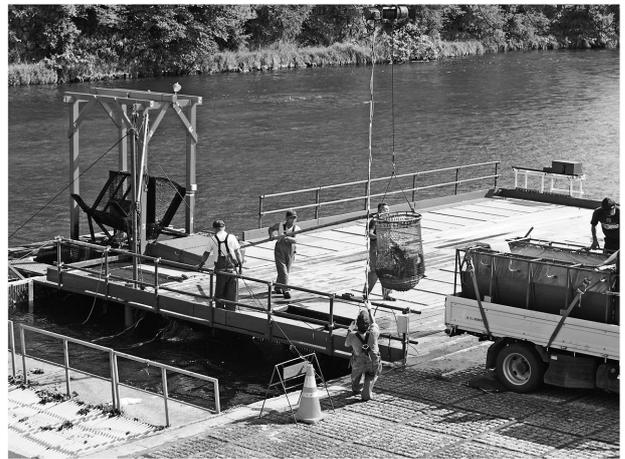


写真-3 インディアン水車でのサケ捕獲状況

(5) 新千歳空港～全国メンバーのお見送り

最後は帰路に就く全国の青年メンバーの方々を新千歳空港にてお見送りしました。

30周年記念イベントに参加いただいたことへの感謝を述べるとともに、10月に徳島県で行われる予定である技術士全国大会での再会を固く誓いあい、手を振りました。

4. おわりに

天候にも恵まれ、北海道の自然や見学先のエリアで進められている取組、秋の風物詩や食についてたくさん学び体験できたツアーだったと思います。

また、これらの学びや体験をともに共有したことによってさらに交流が深まったのではと感じました。